

## 1 4 車椅子サッカー

## I 競技の特性

サッカーは2チームに分かれ、ボールを相手側のゴールへシュートし、得点を競うゲームである。ポピュラーなスポーツなので、肢体不自由児にとっても興味のあるスポーツの1つである。

ここで紹介する「車椅子サッカー」は、「電動車椅子サッカー」のルールを参考に、本校の児童生徒の実態に応じてアレンジしたものである。

「ボールをける」というサッカー競技の大前提である技術は、「車椅子でボールを押し」「手でボールを転がす」という技術に変更した。

## II 施設・用具

## 1.施設

スムーズに車椅子操作がしやすい体育館など屋内が望ましい。

## 2.コート(図1参照)

## 3.用具

## (1)ボール

「電動車椅子サッカー」専用のボールがあるが、プレーヤーの実態によっては、固くて危険な場合があり、本校では柔らかいバルーンボールを使用。

## (2)防球フェンス(4枚)

## (3)得点板

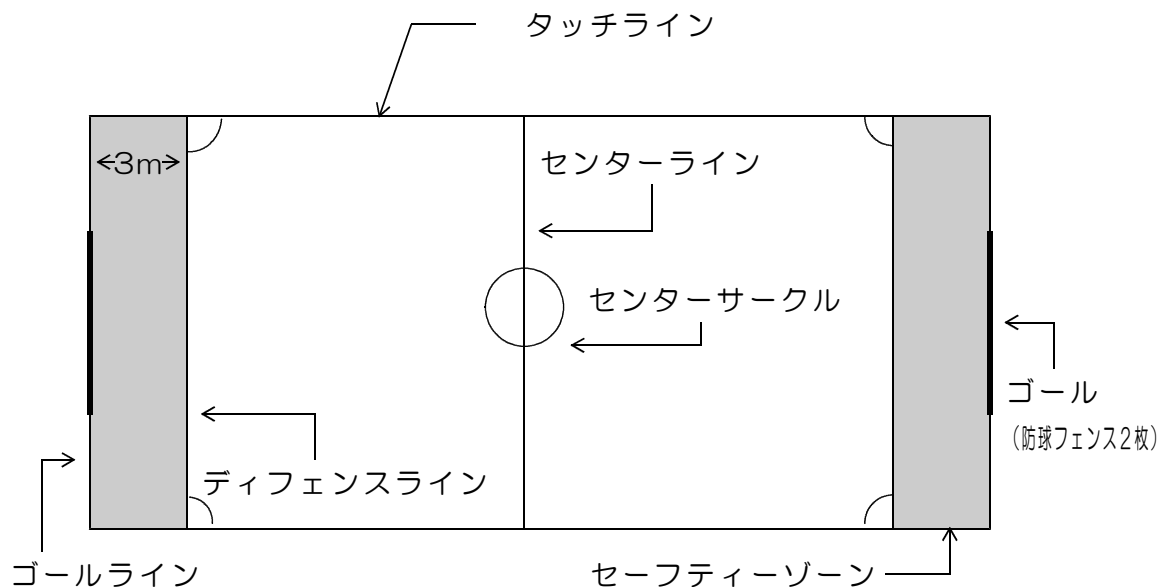


図1 コート

### III 競技の方法

#### 1.人数（チームの編成等）

体育館の広さにもよるが、1チーム5～7人程度が適当である。

#### 2.競技の進め方

- (1)各チーム代表がじゃんけんをして、キックオフかコートを選択する。
- (2)主審の合図で、センターサークルよりキックオフをして、ボールを車椅子で押し  
たり手で転がしながら、相手ゴールへとボールを運び入れる。

#### 3.主なルール

- (1)プレーヤーの実態に合わせて、適切な支援(車椅子をpush, アドバイスなど)をコ  
ート内で介助者が自由に行える。
- (2)相手の進路に対して自分の車椅子の側面で防御してはいけない。正面あるいは、  
同一方向を向いた姿勢での接触プレーはかまわない。
- (3)ボールの奪い合いになり、ボールの動きがなくなった場合には、その時点でヘル  
ドボールとなる。その時点でかかっていた各チーム1名ずつのプレーヤーがボ  
ールに手を置き、審判の合図でプレーを再開する。
- (4)ボールを持ち上げて運んだり投げたりすることはできず、その反則をした場合に  
は、その地点での相手チームのフリーキックとなる。
- (5)自陣ゴールの3m前にゴールラインと平行な線を引き(ディフェンスライン)、そ  
のスペースには攻撃側しか侵入することはできない。守備側がそのスペースに侵  
入して、プレーした場合には、攻撃側にペナルティーキック(スロー)が与えられ  
る。
- (6)ペナルティーキック(スロー)は、ディフェンスライン上にボールを静止させて、  
キックあるいはスローを行う。守備側はそのボールに対して防御することはでき  
ない。
- (7)タッチラインからボールが出た場合には、相手チームのキックインでゲームを再  
開する。
- (8)ゴールラインから攻撃側がボールを出した場合には、センターサークルからの相  
手チームのキックオフでゲームを再開する。
- (9)ゴールラインから守備側がボールを出した場合には、相手チームのコーナーキッ  
クとなる。
- (10)コーナーキックを行うポイントは、ディフェンスラインとタッチラインの交わ  
った点とする。

#### 4.勝敗の決定

制限時間(前半10分-ハーフタイム5分-後半10分)内に多く得点を獲得したチームの  
勝ちとなる。